

報道関係者各位

**電気も灰も炭も使わない。今までなかった※1方法で
千年の間茶室から出なかった香り「練香」を楽しめる香炉。
和乃か（わのか）で、おうちを落ち着いた癒しの空間に。**

有限会社たかはし（代表：高橋和江、気仙沼市所沢321-1）では、高額な電熱コンロや扱いづらい炭を使わない日本初の香炉「和乃か」を開発、販売を開始しました。使うのはアロマバーナーなどに使われるキャンドルのみ。炭との距離が難しい練香を、手間要らず、失敗なしに楽しむことができます。これほど手軽に練香を楽しめる香炉は存在しませんでした。

コロナ禍でリモートワーク疲れなど新しい課題も生まれ、多くの人にマインドフルネスが求められています。平安時代から続いてきた和の伝統の香りで、気持ちを癒していただきたいと思います。

※1※2 一定の温度がかかることと直に火が当たることにより、今までの香炉では得られなかった効果があります(実用新案登録済)

和乃かの概要

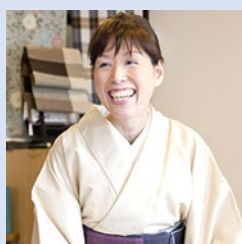
電気も灰も炭もいらない手軽な香炉は、10センチ四方なので場所を選びません。どこにでも馴染む、ぽってりとした肉厚の益子焼です。京都の香老舗である松栄堂の練香「梅が香」「松の齢」に、トングとキャンドルがセットしておりますので、すぐにお使いいただけます。

セット内容：香炉／キャンドル・3個／練香・2種（梅が香・松の齢）各10粒／トング
価格：7,480円（税込）



茶道の歴史の中で、茶室が形作られたのは平安時代。千年にわたって炭の近くにそっと置かれてきたのが練香です。材料の一切は自然由来。昔も今も同じように人の手で、ひとつひとつ丁寧に蜂蜜や梅肉を使って香料を練り固めています。香りが混ざり合い、深みが出るまでには、半年の時間を要します。

和の心で気持ちを落ち着けるため、お客様をもてなすためにもお使いください。



平安時代から続く伝統を、家庭で楽しんでもらいたい。

たかはしきもの工房は、長らく京染取次、着物のお手入れを承ってきました。その後、着物を身近にするための和装肌着「満点スリッパ」の開発をきっかけに、着物と日本伝統の文化を現代の生活やニーズに合うようにアレンジすることを続けてまいりました。「やさしく たのしく おもしろく」、より多くの人に楽しんでもらいたいと考えています。

お茶室だけで楽しんでいた香り「練香」を普段のお部屋に置くことは、ひとつの夢であり、何度も何度も試行錯誤をしてたどり着いた答えです。（高橋和江）



【ご取材・お問合せ先】

たかはしきもの工房 高橋和江

TEL : 0226-23-1111 FAX : 0226-23-3206
〒988-0057 宮城県気仙沼市所沢321-1